

平成21年 5月25日現在

研究種目： 基盤研究 (C)
 研究期間： 2005 年度 ～ 2008 年度
 課題番号： 17591209
 研究課題名 (和文) 生体肝移植患者の術後経過に対する術前の心理社会的予測因子に関する研究
 研究課題名 (英文) Preoperative psychosocial predictors of progress after living donor liver transplantation

研究代表者 野間 俊一 (SHUN' ICHI NOMA)
 京都大学・医学研究科・講師
 研究者番号： 40314190

研究成果の概要： 生体肝移植レシピエントの精神状態に関して、手術直後のうつ病については気分障害の既往、健康的な生活維持の困難、不安定な家族サポートが予測因子となり、手術3から5年後の不安・抑うつ状態は、肝疾患の発症年齢が若く、移植手術待機期間が長いほど生じやすいという結果が得られた。

交付額

(金額単位：円)

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|---------|-----------|---------|-----------|
| 2005 年度 | 1,100,000 | 0 | 1,100,000 |
| 2006 年度 | 600,000 | 0 | 600,000 |
| 2007 年度 | 900,000 | 270,000 | 1,170,000 |
| 2008 年度 | 900,000 | 270,000 | 1,170,000 |
| 年度 | | | |
| 総計 | 3,500,000 | 540,000 | 4,040,000 |

研究分野： 医歯薬学

科研費の分科・細目： 内科系臨床医学・精神神経科学

キーワード： 生体肝移植・レシピエント・精神障害・心理社会的評価・術後経過

1. 研究開始当初の背景

成人間の生体肝移植手術は 1990 年以降急速に件数が増加し、今や一般医療とみなされるまでになったが、術後に心理的な負担を抱える患者は少なくはない。術前から術後の精神状態を予測できれば早期の対処が可能であるが、経過に対する心理社会的な予測因子に関する研究は知られていない。

2. 研究の目的

生体肝移植レシピエントにおいて、術前の心理社会的因子と術直後ならびに数年後の精神状態との関連を調べ、経過に対する心理社会的予測因子を抽出する。

3. 研究の方法

(1) 成人間生体肝移植手術を受けた 67 名のレシピエントについて、術前に STAI、BDI によって不安と抑うつ状態を調べ、WHOQOL-26 と PACT によって社会的状況を評価した。その他、病歴などを心理社会的因子と考え、これらと手術後 3 ヶ月のあいだに生じた精神障害との関連を調べた。

(2) 同じ 67 名のレシピエントについて、手術後 3～5 年経過したのちに、STAI、BDI、WHOQOL-26 を自宅に郵送し返信してもらったかたちで施行し、これらの結果と術前の心理社会的因子との関連を調べた。

4. 研究成果

(1) 生体肝移植術直後のうつ病に対して、気分障害の既往、健康的な生活維持の困難、不安定な家族サポートが予測因子となった。

(2) 4人に1人の割合で認められた術直後の精神疾患は、数年後にはほとんど改善しているが、不安や抑うつ傾向は残存する。肝疾患の発症年齢が若いほど、そして、移植待機期間が長いほど、手術数年後の不安、抑うつ傾向は強いという結果が得られた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計8件)

- ① 野間俊一、林晶子、林拓二：肝移植の最新の進歩と問題点・ドナーの精神的負担。肝胆膵、50(1): 155-160, 2005. 査読なし
- ② 野間俊一、林晶子、林拓二：生体肝移植児童青年期症例に対する精神医学的サポート。児童青年精神医学とその近接領域、46(2): 98-108, 2005. 査読なし
- ③ 野間俊一、林晶子、林拓二：臓器移植医療における精神科の役割。看護技術、10月臨時増刊号(臓器移植看護の現在)、51(12): 116-118, 2005. 査読なし
- ④ 野間俊一、林晶子、林拓二：生体肝移植ドナーの精神医学的諸問題。臨床消化器内科、20(12): 1711-1716, 2005. 査読なし
- ⑤ 野間俊一：生体肝移植医療における精神科のかわり。移植、42(4)：323-328, 2007. 査読なし
- ⑥ Akiko Hayashi, Shun'ichi Noma, Minako Uehara, Haruko Kuwabara, Susumu Tanaka, Yuko Furuno, and Takuji Hayashi: Relevant factors to psychological status of donors before living-related liver transplantation. *Transplantation*, 84(10): 1255-1261, 2007. 査読あり
- ⑦ Shun'ichi Noma, Akiko Hayashi, Minako Uehara, Haruko Kuwabara, Susumu Tanaka, Yuko Furuno, Kohei Ogawa, Takuji Hayashi: Psychosocial predictors of psychiatric

disorders after living donor liver transplantation. *International Journal of Psychiatry in Clinical Practice*, 12(2):120-126, 2008. 査読あり

- ⑧ 野間俊一：移植成功後レシピエントの精神・心理社会的ケア。今日の移植、22(1)、2009.

[学会発表] (計1件)

- ① 野間俊一：移植成功後レシピエントの精神・心理社会的ケア。第44回日本移植学会。大阪国際会議場、2008年9月21日。

[図書] (計3件)

- ① 野間俊一：置き換えられる身体／置き換えられる生——生体肝移植患者の精神医学的・心理社会的諸問題。山中康裕、河合俊雄編：心理療法と医学の接点。p.98-116、創元社、大阪、2005.
- ② 野間俊一、林晶子、林拓二：肝移植。「精神科治療学」第21巻増刊号(症状性(器質性)精神障害の治療ガイドライン)、p82-83、星和書店、東京、2006.
- ③ Shun'ichi Noma, Akiko Hayashi, Takuji Hayashi: Psychological considerations in the donor. Psychological considerations in the recipient. In: Koichi Tanaka (ed.): Evolution of living-donor liver transplantation. p67-72, p133-138. Prous Science, Barcelona, 2008.

[その他]
ホームページ等

6. 研究組織

- (1) 研究代表者
野間 俊一 (SHUN' ICHI NOMA)
京都大学・医学研究科・講師
研究者番号：40314190
- (2) 研究分担者

(3) 連携研究者

林晶子 (AKIKO HAYASHI)
京都大学・医学研究科・助教
研究者番号：70378636